



薬野：製薬業界に詳しい経済評論家



未来：健康意識の高いキャリア女性。年齢はヒミツ

日進月歩で進化している日本の創薬技術。日々新しいくすりの開発に挑戦している製薬業界の「いま」をいっしょにのぞいてみませんか。

がん医療の進歩を支える新しいくすり

未来 「日本人の2人に1人が、がんにかかる時代」かあ…。

薬野 未来ちゃん、ため息ついでどうしたの？

未来 ネットニュースでがんについての記事を見たんだけど、日本人の2人に1人ががんにかかり、3人に1人ががんで亡くなっているんですって。何だかこわくて…。

薬野 確かに多くの人がかかるけど、医療の進歩のおかげで、いまやがんは早期に見えれば十分に治る可能性のある病気になってきているんだ。

未来 がんを診断する技術も進んでいるよ。長い人生、支えてもらおうと。

歩しているって聞いたわ。

薬野 うん、それにがん治療薬も進歩しているよ。たとえば、分子標的薬がある。これまでの抗がん剤はがん細胞だけでなく正常な細胞も攻撃してしまうことがあったが、分子標的薬は、がんの増殖や転移にかかわるたんぱく質（分子）だけをピンポイントに攻撃することを想定している。従来の抗がん剤に比べて副作用が少なくなると期待されているよ。まだ全てのがんに使えるわけではないが、患者さん一人ひとりの遺伝子を調べて、その人に合ったくすりを使用して治療できるようになってきた。これをテーラーメイド医療というそうだ。

未来 そっか、早期に見つけてその人に合ったくすりを使えば

よく効くし、副作用も少なくてすむ、ってことね。

薬野 おつ、冴えてるね。そこまで勉強したら、次にすることは何かな？

未来 がん検診を受けること！はいっ、すぐに予約します！

「難病」といわれた病気の治療薬も

未来 がん以外にも画期的なくすりはあるの？

薬野 うん。この10年ほどの間にいろいろ開発されている。たとえば2003年に関節リウマチ治療薬として登場した抗体医薬。関節リウマチは徐々に関節が変形して腫れや痛みをひきおこすつらい病気なんだが、このくすりのおかげで病気の進行を食い止めることができるようになってきたんだよ。

未来 病気が進行しないなら患者さんにとっては安心ね。

薬野 進行させないだけではなく、完治が望めるようになった病気もある。ウイルス感染が原因のC型肝炎を知っているかい。感染しても無症状のままだけど、約20年の経過で肝硬変や肝がんへと進んでいくこわい病気なんだ。これに対し、2014年以降、新しいタイプの抗ウイルス剤が次々と開発されて、日本の医療現場でも使えるようになり、のみ薬だけでもほとんどの患者さんが治るようになった。

国境を越えて、病気と闘う

未来 昔は治せなかった病気がくすりで治るって、すごいなあ。

薬野 それでもまだまだ多くの病気があり、現在も治療に困っている病気がたくさんある。「アンメット・メディカル・ニーズ（いまだに有効な治療法のない病気）」と呼ばれているよ。製薬業界がこれからも永遠に挑戦しつづける研究開発のテーマだ。

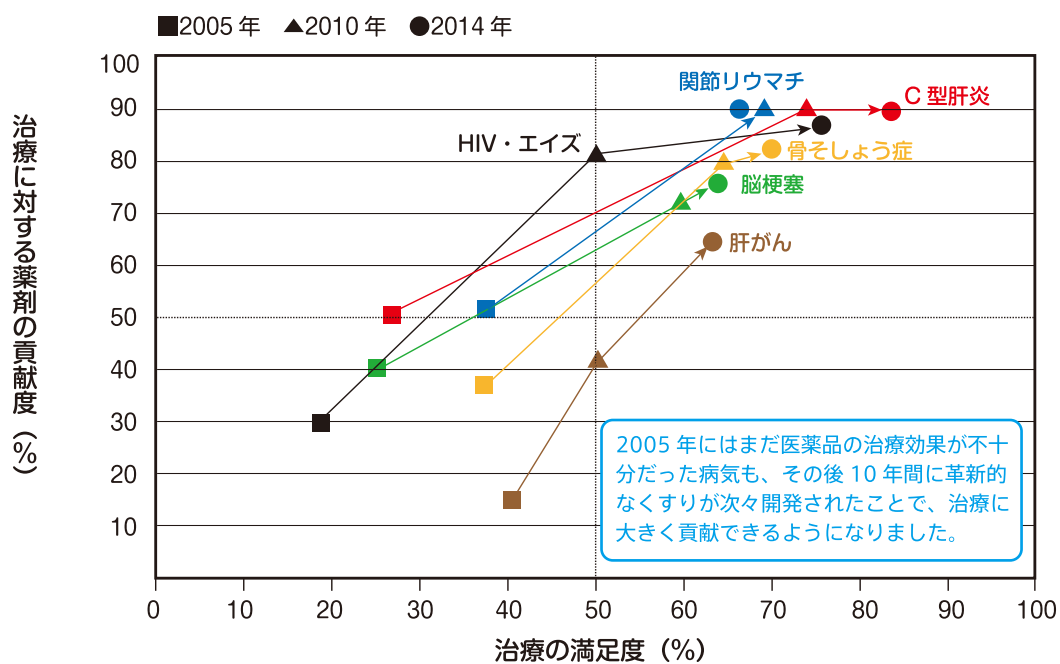
未来 日本は世界トップクラスの長寿国でしょ。新しいくすり

未来 世界の中で、日本の製薬企業はどんな位置づけなの？

薬野 画期的なくすりの開発、つまり創薬には高度な技術が必要で、それを担えるのはごくわずかな国に限られる。創薬の件数では日本は世界第2位。日本の研究開発力の高さは山中伸弥先生や大村智先生など、ノーベル賞受賞者を次々と送り出していることにも表れている。

未来 創薬の研究で世界をリードする日本だからこそ、国境を越えて病気と闘っているのね！

新薬の登場で治療満足度は大きく向上



2005年にはまだ医薬品の治療効果が不十分だった病気も、その後10年間に革新的なくすりが次々開発されたことで、治療に大きく貢献できるようになりました。

出典：公益財団法人 ヒューマンサイエンス振興財団「平成27年度国内技術基盤調査報告書」より一部改変